PENTAX®

ESPIO 928M

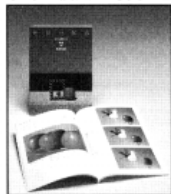
QUARTZ DATE

使用説明書

カメラの正しい操作のため、ご使用前に必ずこの使用説明書をご覧ください。

このたびは、ペンタックスESPIO928M（エスピオ928M）デートをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。「エスピオ928M」は、28ミリ広角から90ミリまでのズームを備え、フィルム途中でのパノラマ／標準撮影の切り替え、離れたところから撮影できるリモコンなど、いろいろな機能を搭載した小型軽量ズームコンパクトカメラです。

・本文中の写真・イラストは、実際の製品と異なる場合があります。
・71、72ページに切り取って使える「クイックガイド」がありますので、ご利用ください。

「林檎の秘密」
すぐに役立つ写真の基礎知識

露出の仕組みや光の測り方、ピントの合わせ方など写真の基礎を豊富なイラストと作例でわかりやすく解説しています。お求めは、ペンタックスサービス窓口・ペンタックスファミリーまたは、最寄りのカメラ店で。

説明書本文中の記号について

操作の方向	←
自動的に動きます	⇔
注目してください	（破線の円）
点灯します	（点灯記号）
点滅します	（点滅記号）

補足説明が書かれています。

注意していただきたいことが書かれています。

この製品の安全性については十分注意を払っておりますが、2ページにある下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

⚠ 警告

このマークの内容を守らなかった場合、使用者が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

⚠ 注意

このマークの内容を守らなかった場合、使用者が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。

⊘ は、禁止事項を表わすマークです。

⚠ は、注意を促すためのマークです。

⚠ 警告

⊘ カメラを分解しないでください。カメラ内部には高電圧部があり、感電の危険があります。

⊘ 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手をふれないでください。感電の危険があります。

⊘ ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようにご注意ください。

⚠ 注意

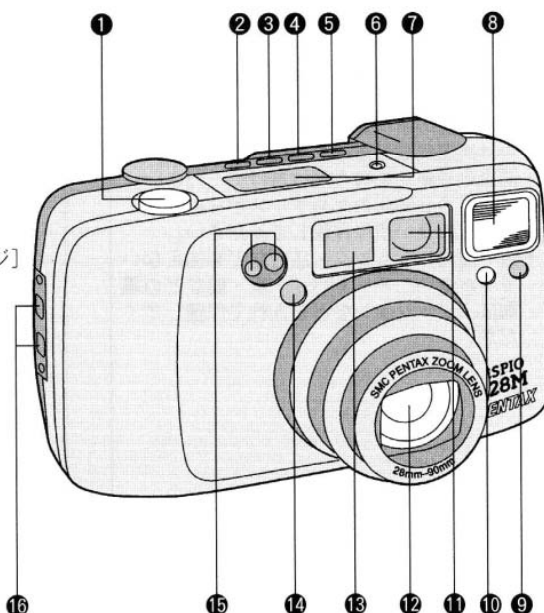
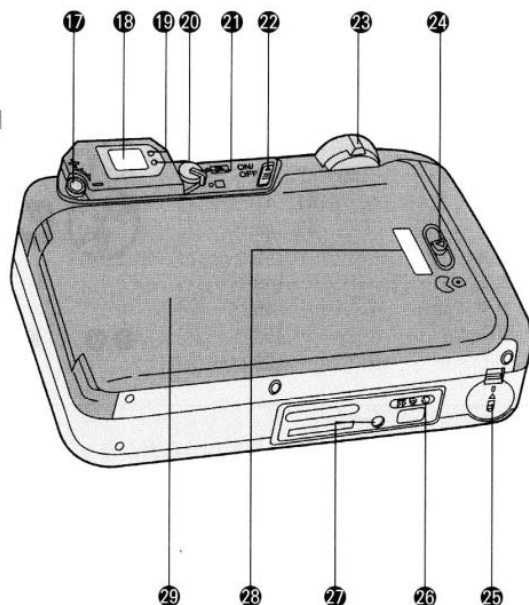
⊘ 電池をショートさせたり、火の中に入れないでください。また、分解や充電をしないでください。破裂・発火の恐れがあります。

⚠ 万一、カメラ内の電池が発熱・発煙を起こしたときは、速やかに電池を取り出してください。この場合、やけどに十分ご注意ください。

- 汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
- 高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでご注意ください。
- 防虫剤や薬品を扱う所は避けてください。また、カビ防止のためケースから出して、風通しの良い所に保管してください。
- 強い震動・ショック・圧力などを加えないでください。オートバイ・車・船などの震動は、クッションなどを入れて保護してください。

- レンズ、ファインダー窓のホコリはブロワーで吹き飛ばし、きれいなレンズブラシで取り去ってください。
- 高性能を保つため、1～2 年毎に定期点検をしてください。長期間使用しなかったときや、大切な撮影の前には点検や試し撮りをしてください。
- カメラの使用温度範囲は－10℃～50℃です。
  ・急激な温度変化を与えると、カメラの内外に水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメラの中に入らないようにご注意ください。故障の原因になります。

各部の名称

❶シャッターボタン[25ページ]
❷AF／遠景ボタン[39 ページ]
❸セルフ／リモコンボタン[39 ページ]
❹赤目軽減ボタン[38 ページ]
❺ストロボ／バルブボタン[38 ページ]
❻デートボタン[59 ページ]
❼表示パネル[6 ページ]
❽ストロボ発光部
❾リモコン受光部[50 ページ]
❿セルフ／リモコンランプ[47、50 ページ]
⓫ファインダー窓
⓬レンズ
⓭測距窓
⓮補助光発光部[30 ページ]
⓯測光窓
⓰ストラップ通し[13 ページ]

⓱視度調整ダイヤル[22 ページ]
⓲ファインダー接眼窓
⓳緑ランプ[29ページ]
⓴赤ランプ[29ページ]
㉑パノラマ切り替えレバー[56 ページ]
㉒電源スイッチ[18 ページ]
㉓ズームレバー[24 ページ]
㉔裏ぶた開放レバー[14 ページ]
㉕電池ぶた[35 ページ]
㉖途中巻き戻しボタン[33 ページ]
㉗三脚ネジ穴[46、49 ページ]
㉘フィルム情報窓
㉙裏ぶた[14 ページ]

各部の名称

❶日付／時刻表示 ……………[59 ページ]
❷フィルム枚数 ………………[17 ページ]
❸電池消耗警告 ………………[34 ページ]
❹遠景 …………………………[52 ページ]
❺ストロボOFF …………[41、43 ページ]
❻ストロボON ………[40、42、44 ページ]
❼低速シャッター ………[41、42 ページ]
❽バルブ ………………[43、44 ページ]
❾赤目軽減 ……………………[45 ページ]
❿リモコン ……………………[49 ページ]
⓫セルフタイマー ……………[46 ページ]
⓬スポットAF …………………[53 ページ]
⓭ズームレバー ………………[60 ページ]

液晶表示[LCD]について

- 約 60℃の高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることがあります。これは液晶の性質によるもので故障ではありません。

目　次

使い方は簡単です。[通常の撮影手順]

裏ぶたを開けます。[14ページ]

フィルムを入れ、裏ぶたを閉じます。[15ページ]

自動的に1コマ目まで巻き上がります。[17ページ]

電源を入れます。[18ページ]

5 ファインダーをのぞき、ズームレバーを動かして写したいものの大きさを決めます。[24ページ]

6 ピントを合わせたいものにファインダー内の〔 〕を合わせます。[25ページ]

7 シャッターボタンを押して撮影です。暗い所では自動的にストロボが光ります[26ページ]

8 フィルムが終わると自動的に巻き戻しが始まります。[31ページ]

こんな写真を撮るには？

ピント関係

ストロボ関係

ズーミング関係

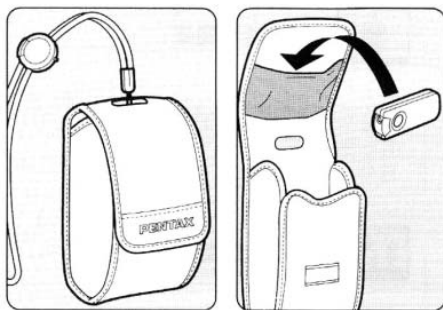
人物撮影関係

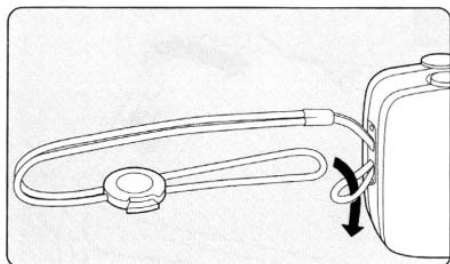
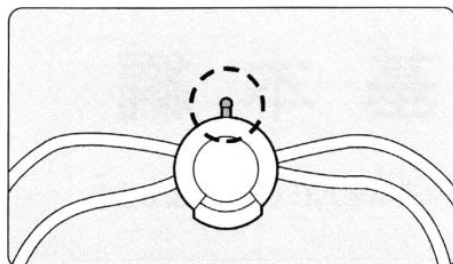
風景撮影関係

その他

準 備 編

撮影前の準備をしましょう

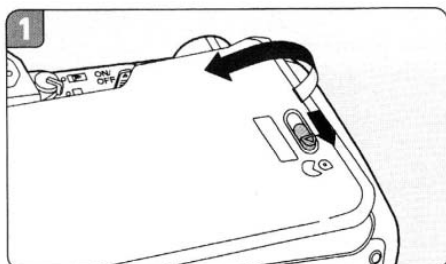
ソフトケース

カメラをケースに入れるときは、電源を切ってから入れてください。[電源については 18 ページをご覧ください]

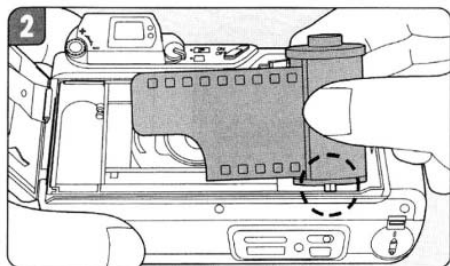
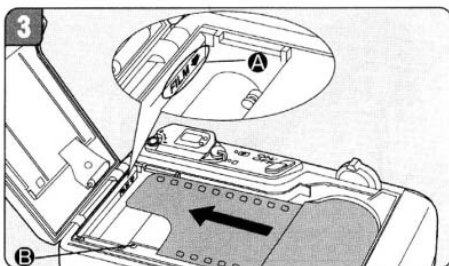
- ソフトケースの内側には、リモコンを収納するためのポケットがあります。リモコンを使用しない時は、図のポケットに入れておきましょう。

ストラップを図のように、カメラのストラップ通しに通します。

ストラップ留め具の図の部分は、フィルムの途中巻き戻しや電池交換時に使用します。[33、35 ページをご覧ください]

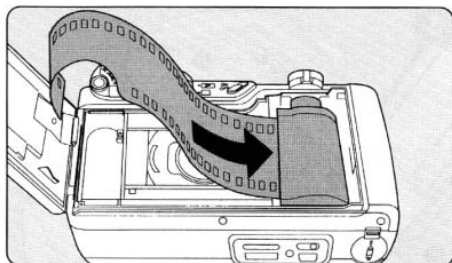
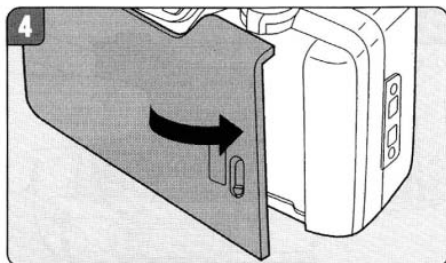
基本編

フィルムを入れて撮影しましょう

フィルムは、一通り説明書を読んでカメラの操作に慣れてから入れましょう!!

フィルムを入れます

1. 図のように、裏ぶた開放レバーを押し下げ、裏ぶたを開けます。

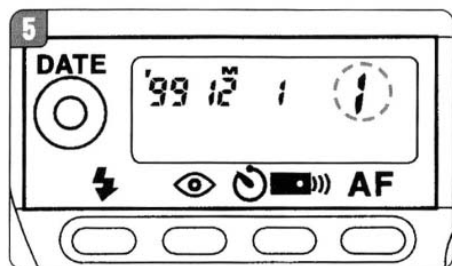
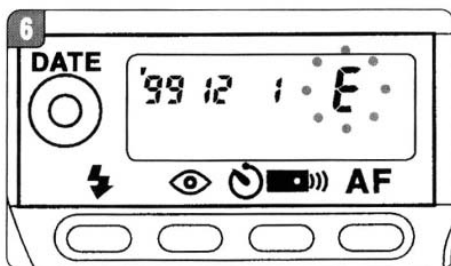
● フィルムは、直射日光の当たらない所で入れてください。

2. フィルムは凸側を上にして、下側から先に突起に差し込むようにして入れます。

3. フィルムの先端を🅐のフィルム先端マークまで引き出します。

- 🅑のフィルム検知部にゴミなどが付着するとフィルムが正しく巻き上げられません。
- このカメラで撮影した画像は、フィルム上ではコマ番号と上下が逆さに写し込まれます。これはカメラを小型化するため、フィルムをセットする向きが一眼レフカメラとは逆になっているためです。

フィルムの先端が長く出すぎたときは、フィルムをパトローネに少し押し戻します。

4. 裏ぶたを「カチッ」と音がするまでしっかりと閉めてください。

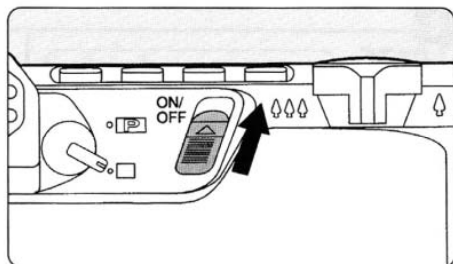
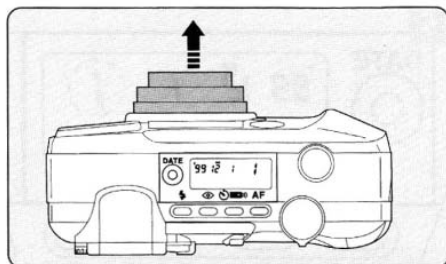
フィルム感度について

フィルムを入れるだけでフィルム感度は自動的にセットされます。

- ISO25~3200 までのフィルムが使えます。
- 手ぶれ防止やストロボ撮影に有利なフィルム感度400[ISO400]の使用をお勧めします。

- 必要以上の高感度フィルムをお使いになるときれいな写真が撮れないことがあります。
- DX以外のフィルムは、フィルム感度が25にセットされてしまいますので使用できません。
- フィルムは、まっすぐたるみがないように入れてください。

5. 裏ぶたを閉めると自動的にフィルムが巻き上げられ、表示パネルに［ 1 ］が表示されます。必ず枚数表示が［ 1 ］になっていることを確認してください。

6. フィルムが正しく入っていないと、表示パネルに［ E ］が点滅して知らせます。裏ぶたを開けて、もう1度フィルムを正しく入れ直してください。

- フィルム枚数は、電源が切れていても常に表示されます。
- 表示パネルには、これから撮影をするフィルム枚数[何枚目]が表示されます。

電源を入れます

電源スイッチを上方向に動かすと電源が入ります。[撮影できます]
電源を切るときも、電源スイッチを同じように動かしてください。

電源を入れるとレンズが少し出ます。
[焦点距離 28mmにセットされます]

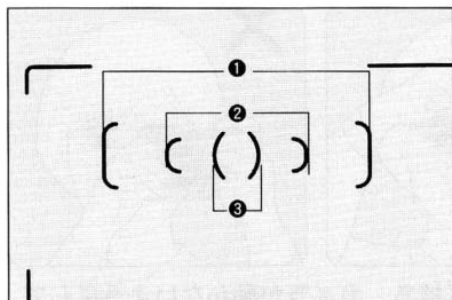
- 電源を入れると、オート撮影にセットされます。オート撮影は、暗い所や逆光の時に自動的にストロボが光る最も一般的な撮影モードです。
- 使用しないときは、必ず電源を切ってください。
- 電源を入れたまま放置した場合は、放置後約3分間たつと、自動的に電源が切れます。[自動電源オフ]
- 3Vリチウム電池[CR123A相当品] 1本を使用します。電池を抜いた場合は、時刻が0時0分に変わりますので、必ず時刻の修正をしてください。
- 低温では、一時的に電池の性能が低下することがあります。
- 海外旅行・寒冷地での撮影や写真をたくさん撮るときは、予備電池をご用意ください。

カメラを構えます

撮影するときは、カメラを両手でしっかり持ち、カメラが動かないようにして、シャッターボタンを静かに押しましょう。[強く押すとカメラが動いて、きれいな写真が撮れません。]

- カメラを縦位置に構えてストロボ撮影するときは、ストロボが上になるようにしましょう。影が自然な方向に出ます。

- 落下などの原因になりますのでレンズ部分を持たないでください。
- カメラ前面の測距窓・レンズ・測光窓・ストロボ発光部などを、髪や手でふさぐと、ピンボケ・露出不足・露出オーバーなどの原因になります。

ファインダーをのぞきます

ファインダーをのぞくと、図のような表示が見えます。ファインダーをのぞいたときに見えている範囲が写真に写ります。

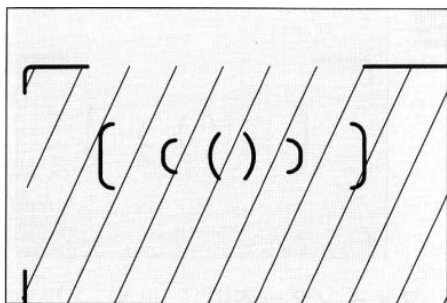
❶の〔 〕表示と❷の〔 〕表示

通常撮影[5点AF]のときにピントが合う範囲です。ピントを合わせたいものにこの表示を合わせて撮影してください。

❶は焦点距離が90mmのとき、❷は焦点距離が28mmの場合のピントが合う範囲です。ピントの合う範囲は焦点距離が90mm側になるにつれて徐々に広くなります。

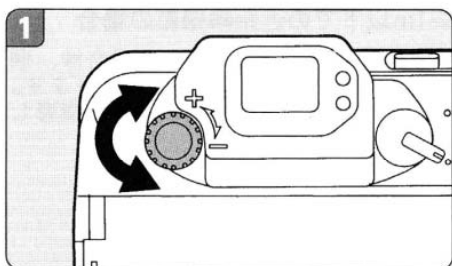
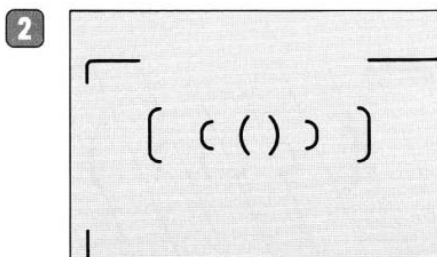
❸の ( ) 表示

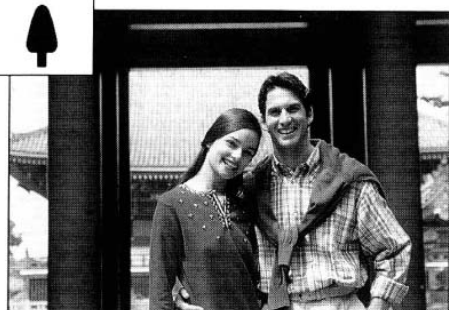
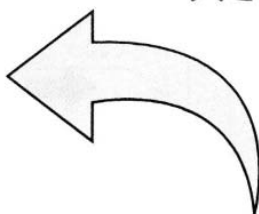
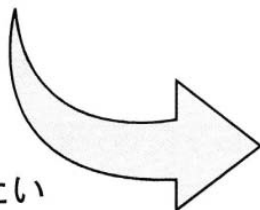
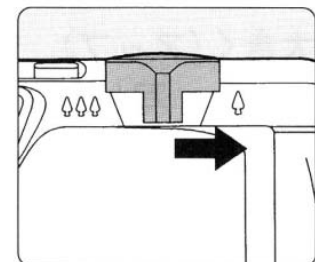
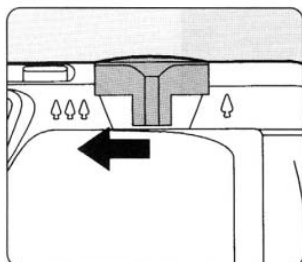
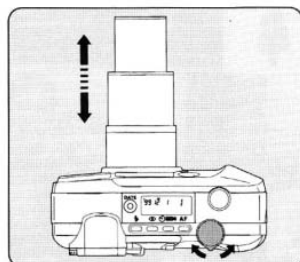
スポットAF撮影のときにピントが合う範囲です。スポットAF撮影については、53ページをご覧ください。

- ファインダー内の〔 〕や ( ) などの表示が見えにくいときは、視度調整を行なってください。[22ページをご覧ください]

※1m以下での近距離撮影の場合

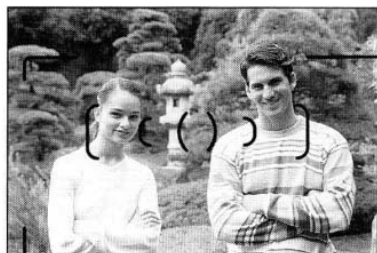
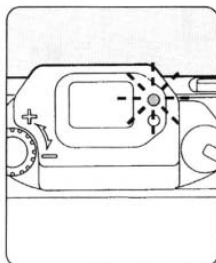
撮影距離が1m付近より手前の場合は、図の斜線部分が写真に写る範囲になります。写したい物をこの範囲内に入れて撮影してください。

●1mより近距離でのパノラマ撮影は、ファインダーで見える範囲と実際に写る範囲の差が大きくなりますので、お勧めできません。

視度調整

1. カメラを明るい方へ向け、ファインダーをのぞきながら視度調整ダイヤルを動かします。

2. ファインダー内の〔 〕や（）などの表示が最もはっきり見える位置に調節します。

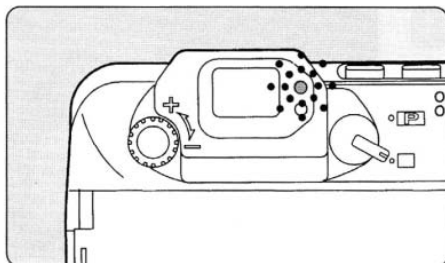
●視度調整は、ファインダー内の表示が見えにくいときに行なってください。
●視度は、−3～+1m⁻¹［毎メートル］の範囲で調節が可能です。

大きく（アップ）
写したい

広い範囲を
写したい

● 28〜90mm の範囲でズーミングができます。

ズームレバーを ♠ 側に動かすと、遠くのものを大きく写せる 90mm側になります。

ズームレバーを ♠♠♠ 側に動かすと、広い範囲を写せる28mm［広角］側になります。

ファインダーをのぞきながら、写したいものを好みの大きさに調節して撮影してください。

● 切り替え操作不要で、28〜90mmのズーム全域で0.5mまでの接写が可能です。［ズームマクロ機構］

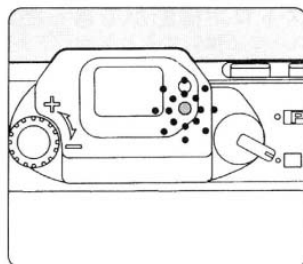
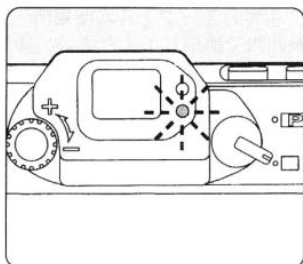
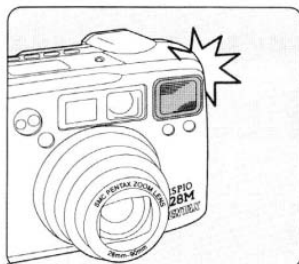
● ズームレンズには、無理な力を加えないでください。レンズを下向きに置かないでください。故障の原因になります。

1. ピントを合わせたいものにファインダー内の〔 〕を合わせます。

2. シャッターボタンを少し押すと自動的にピントが合い、緑ランプが点灯します。[ランプ表示については、29 ページをご覧ください。]

- このカメラは、5点AFですから、ピントを合わせたいものが画面中心から多少外れていても比較的ピントが合い易くなっています。
- 撮影できる距離は、0.50m より遠くです。0.50m以下の撮影では、ピントが合いません。
- サービスサイズのカラープリント[パノラマプリントを含む]では、画面周辺の物がプリントされないことがあります。構図に少し余裕を持たせてください。

3. 緑ランプの点灯後、そのままシャッターボタンを押して撮影します。

緑ランプが点滅しているとピントが合いません。撮影するときは、必ず緑ランプの点灯を確認してください。[ピントが合わない場合については、30ページをご覧ください。]

- 一度緑ランプが点灯してから別のものにピントを合わせ直すときは、シャッターボタンを押し直してください。
- シャッターボタンを押すと、セルフ/リモコンランプが光り、シャッターがきれたことを知らせます。

- 測距窓が汚れていると、正しいピント合わせができなくなります。
- 緑ランプの点滅中でも撮影はできますが、ピントは合いません。

ストロボ自動発光について

このカメラでは、暗いときや逆光のときにストロボが自動的に光ります。

シャッターボタンを少し押して、赤ランプが点灯すれば、ストロボが光ります。

赤ランプの点滅は、ストロボ充電中でシャッターがきれません。点灯を確認してから撮影してください。

- このカメラには、ストロボの2度発光による赤目軽減機能が付いています。詳しくは45ページをご覧ください。
- ストロボを連続して使うと、電池が多少温かくなることがありますが、異常ではありません。

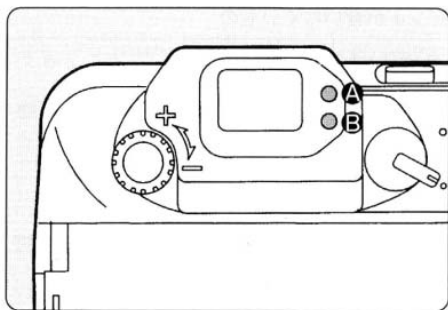
ストロボ撮影ができる距離［ネガカラーフィルム使用時］

ストロボ撮影するときは、下表の範囲内で撮影してください。撮影距離が遠いとストロボの光が届きません。

レンズ ＼ ISO	100	200	400
28mm(♠♠♠)	0.50〜3.7m	0.50〜5.2m	0.50〜7.4m
90mm(♠)	0.50〜2.0m	0.50〜2.8m	0.50〜3.9m

ISO100、200、400以外のフィルムを使用したときのストロボ撮影距離

レンズ ＼ ISO	25	50	800	1600	3200
28mm(♠♠♠)	0.50〜1.8m	0.50〜2.6m	(＊) 0.68〜10.4m	(＊) 1.0〜14.7m	(＊) 1.4〜20.8m
90mm(♠)	0.50〜1.0m	0.50〜1.4m	0.50〜5.5m	0.50〜7.8m	0.50〜11.0m

(＊)：高感度フィルムのため、近距離では露出オーバーになることがあります。

ランプ表示について

ファインダー接眼窓の右横には、Ⓐ Ⓑのランプ表示があります。
ランプ表示は、シャッターボタンを少し押したときに表示されます。

Ⓐの緑ランプ

ピントの状態を緑色のランプが点灯・点滅して知らせます。
点灯：ピントが合っています。撮影できます。
点滅：撮影距離が近すぎたり、ピント合わせの苦手なものでピントが合わないときです。

Ⓑの赤ランプ

ストロボの状態を赤いランプが点灯・点滅して知らせます。
点灯：ストロボが光ります。
［ストロボ充電完了］
点滅：ストロボが充電中です。

ピントが合わない場合

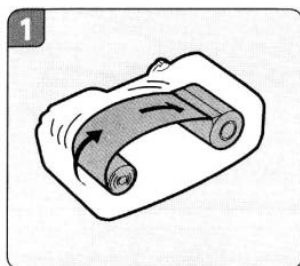
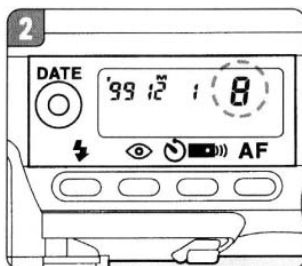
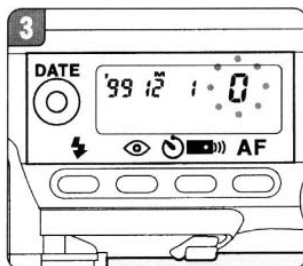
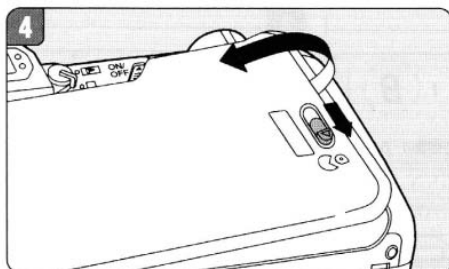
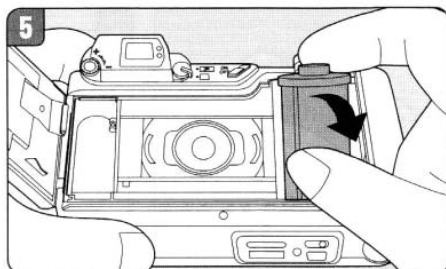
1.ピントが合いにくいもののとき
写したい物の条件が右記のような場合では、ピントが合わないことがあります。この場合は、ピントを合わせたい物とほぼ等しい距離にあるものにピントを固定［フォーカスロック］して撮影してください。フォーカスロックについては、54ページをご覧ください。

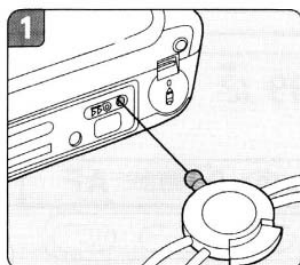
2.撮影距離が近すぎるとき
撮影距離が近すぎるとピントが合いません。ピントを合わせたい物から、もう少し離れて撮影してください。撮影できる距離は、0.50mより遠くです。

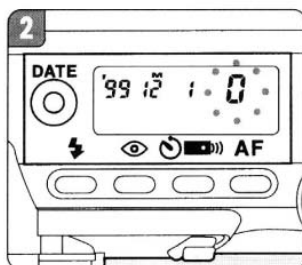
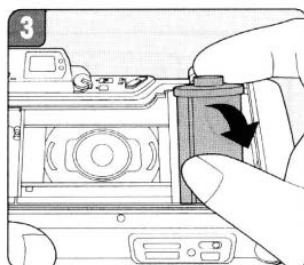
ピントが合いにくいもの

a）白い壁や青空など極端にコントラスト（明暗差）の低い物の場合。
b）真っ黒なものなど、光を反射しにくい物の場合。
c）非常に速い速度で移動している物の場合。
d）横線のみや細かな模様の場合。
e）遠近のものが同時に存在する場合。
f）反射の強い光、強い逆光（周辺が特に明るい場合）。

補助光について
暗いところや明暗差の少ない物などではピントが合いにくくなります。こんなときにシャッターボタンを少し押すと、自動的に赤色光（補助光）を光らせてピントを合わせ易くします。

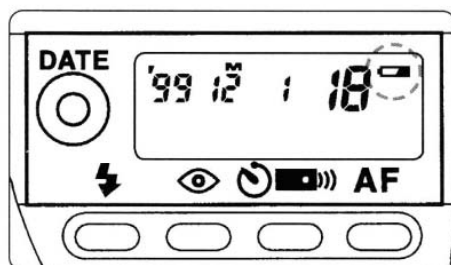
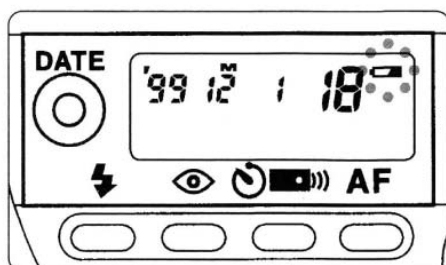
フィルムを取り出します

1. フィルムを最後まで撮り終えると、自動的に巻き戻しが始まります。
2. 巻き戻し中は、撮影枚数が逆算表示されます。
3. 巻き戻しが終わるとモーターは止まり、図のように表示パネルの 0 が点滅して知らせます。

- 巻き戻し時間は24枚撮りで約20秒です。
- 巻き戻し完了時、光もれを防ぐためフィルムは、すべて巻き込まれます。
- フィルムは直射日光が当たらない所で取り出しましょう。

4. 表示パネルの 0 の点滅を確認してから.裏ぶたを開けます。
5. 図のように上側から先に引き出してからフィルムを取り出します。

- 規定枚数になっても、まだ撮影が続けられるときは、フィルムの最後まで進んでから巻き戻しが行なわれます。ただし、36枚撮りフィルムでは、36枚目撮影後すぐに巻き戻しが行われます。

- 12および、24枚撮りフィルムでは、フィルムの規定枚数を超えた最後のコマは、現像処理でカットされることがあります。
- 巻き戻し中は、絶対に裏ぶたを開けないでください。せっかく撮影した写真が駄目になってしまいます。

フィルムの途中巻き戻し

1. カメラの底部分にある途中巻き戻しボタン O<< をストラップの突起で押します。［巻き戻しが始まります］

2. 巻き戻しが終わると、モーターは止まり表示パネルの 0 が点滅します。

3. 表示パネルの 0 の点滅を確認してから、裏ぶたを開けフィルムを取り出してください。

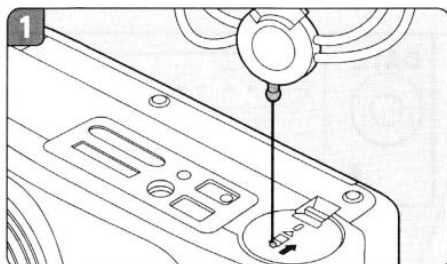
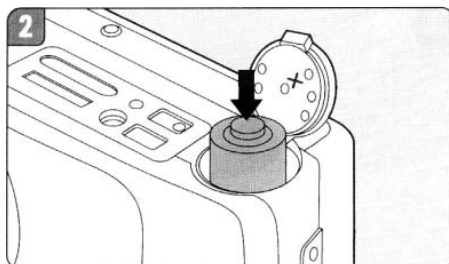
途中巻き戻しは、フィルムを最後まで撮り終わらないうちに途中で取り出したいときにご利用ください。

- フィルムの途中巻き戻しは、電源が入っていなくても作動します。

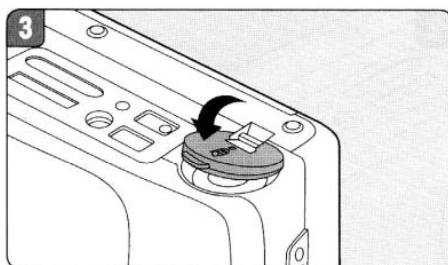
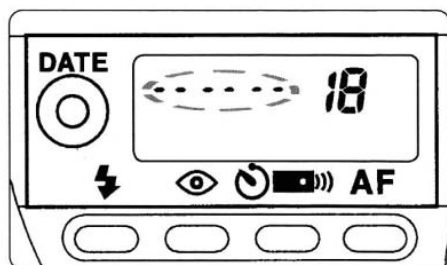
電池の消耗警告

電池が消耗してくると表示パネルの   マークが点灯して警告します。早めに新しい電池と交換してください。

  マークが点滅に変わると、シャッターが切れなくなります。

新品電池で撮影できるフィルム本数［24枚撮り］
通常の撮影モードでストロボの使用率を50%にした場合………約15本
［CR123A電池・当社試験条件による］

- 低温では、一時的に電池の性能が低下することがありますが、常温に戻れば使用できます。また、撮影できる本数が少なくなります。
- あらかじめカメラにセットされている電池はサンプル電池のため、上記のフィルム本数を撮影できないことがあります。

電池の交換

1. ストラップを利用して、電池ぶたを開けます。

2. 古い電池を取り出して、図のように新しい電池を入れます。

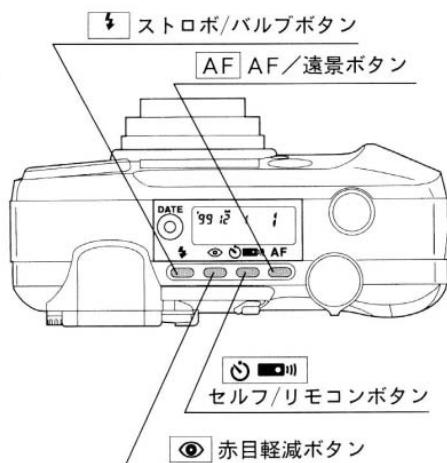
使用電池……………3Vリチウム電池 CR123A相当品(1本)

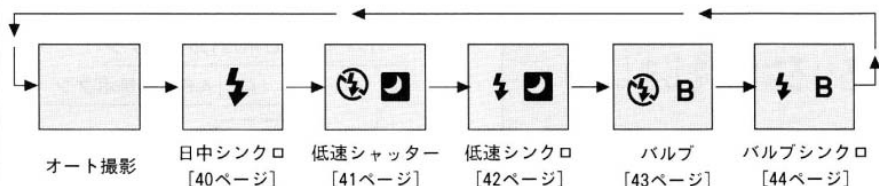
- 電池は、[−]側から先に入れてください。電池の向きが違うとカメラは作動しません。

3. 電池ぶたを押して閉めます。

電池を外すと時刻が「0時0分」になり、写し込み禁止 [------] になります。必ず時刻の修正を行なってください。
[修正は60ページをご覧ください。]

- 電池を交換時には、フィルム枚数および日付[年月日]はそのまま記憶されています。
- 電池を交換しても正しく作動しないときは、電池の向きを確認してください。
- 海外旅行・寒冷地での撮影や写真をたくさん撮るときは、予備電池をご用意ください。

応用編

いろいろな撮影をしましょう

カメラの[⚡]・[セルフ/リモコン]・[赤目]・[AF]ボタンを押して、表示パネルにマークを表示させるだけで、簡単にいろいろな撮影モードを選ぶことができます。

[⚡] ストロボ／バルブボタン

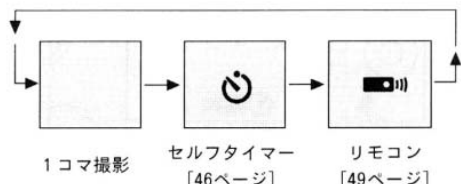
ストロボ／バルブボタンを押すと、ストロボを光らせたり、光らせないようにしたり希望の露出モードを選ぶことができます。

● 通常の撮影では、表示パネルにマークを出さない「オート撮影」に合わせてください。オート撮影は、暗いときや逆光のときにストロボが自動的に発光する最も一般的なモードです。電源を切るとオート撮影に戻ります。

[赤目] 赤目軽減ボタン

ストロボ撮影で目が赤くなるのを目立たなくする「赤目軽減機能」をセットすることができます。詳しくは、45ページをご覧ください。

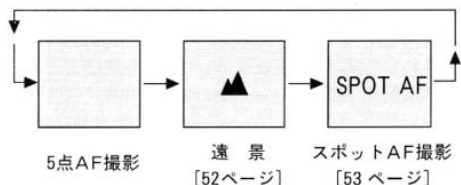
⏱ セルフ／リモコンボタン

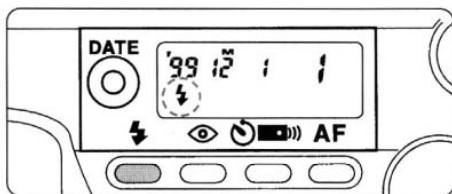
セルフ／リモコンボタンを押すと、1コマ撮影・セルフタイマー撮影・リモコン撮影を選ぶことができます。

1コマ撮影　セルフタイマー [46ページ]　リモコン [49ページ]

● セルフタイマーやリモコンを使用しないときは、表示パネルに ⏱ や リモコン マークを出さない「1コマ撮影」に合わせてください。電源を切ると「1コマ撮影」に戻ります。

AF AF／遠景ボタン

AF／遠景ボタンを押すと、5点AF撮影・遠景撮影・スポットAF撮影を選ぶことができます。

5点AF撮影　遠　景 [52ページ]　スポットAF撮影 [53 ページ]

● 通常の撮影では、表示パネルにマークを出さない「5点AF撮影」に合わせてください。電源を切ると「5点AF撮影」に戻ります。

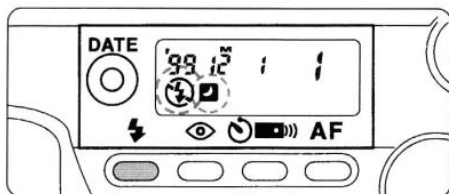
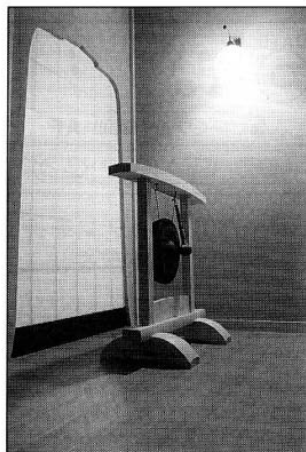
ϟ 日中シンクロ撮影 ［ストロボ強制発光］

ストロボ／バルブボタンを押して、表示パネルに ϟ 表示を出し撮影します。

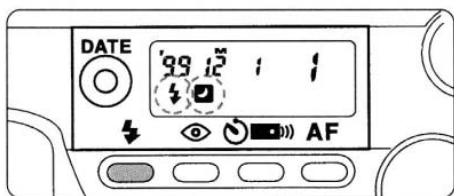
このモードでは、明るさに関係なく、いつもストロボが光ります。帽子などで人物の顔が暗くなってしまうときに利用すると、影の取れたきれいな写真が撮れます。また、常時ストロボ撮影を行ないたいときにもご利用ください。

● 写したいものにストロボ光が届く距離内で撮影してください。［ストロボ撮影できる距離については、28 ページをご覧ください。］

ストロボなし

ストロボ使用　日中シンクロ

低速シャッター撮影[ストロボ発光禁止]

ストロボ／バルブボタンを押して、表示パネルに 表示を出し撮影します。

このモードでは、ストロボを光らせません。夕景撮影や暗くてもストロボが使えない場所[劇場、美術館など]での撮影にご利用ください。ストロボを光らせませんので、室内の照明を利用して雰囲気のあるソフトな写真を楽しめます。

● 低速シャッター撮影では、シャッター速度が遅くなります。手ぶれを防ぐため、カメラを三脚などに固定してください。また、写される人が動いてしまっても、写真はぶれてしまいますのでご注意ください。

低速シンクロ撮影

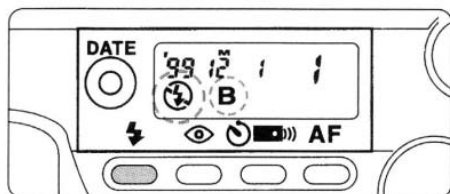
ストロボ／バルブボタンを押して、表示パネルに 表示を出し撮影します。

夕景などをバックに人物を撮影するときに使います。低速シンクロ撮影では、人物にストロボ光を当て、遅いシャッター速度でストロボ光が届かない背景まできれいにバランス良く撮影できます。

● 写したいものにストロボ光が届く距離内で撮影してください。[ストロボ撮影できる距離については、28 ページをご覧ください。]

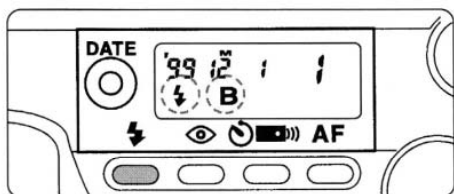
● 低速シンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなります。手ぶれを防ぐため、カメラを三脚などに固定してください。また、写される人が動いてしまっても、写真はぶれてしまいますのでご注意ください。

B バルブ撮影

ストロボ／バルブボタンを押して、表示パネルに B 表示を出し撮影します。

花火や夜景の撮影など、シャッターを長時間開き続けて撮影をする場合にご利用ください。

バルブ撮影
ISO400 で約 3 秒の撮影

- バルブ撮影は、シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。[最長約 1 分]
- 長い時間シャッターボタンを押し続けるほど、明るい写真になります。

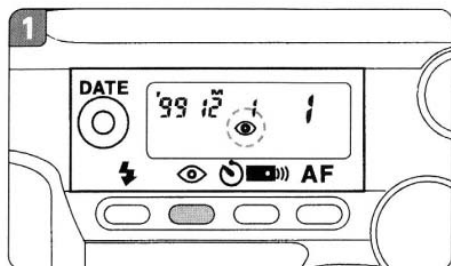
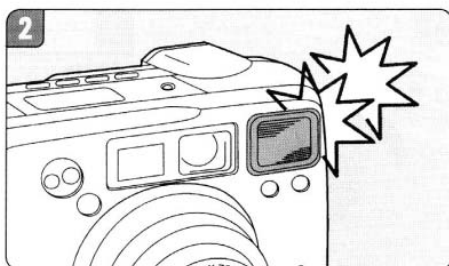
- バルブ撮影では、手ぶれを防ぐため、カメラを三脚などに固定してください。

B バルブシンクロ撮影

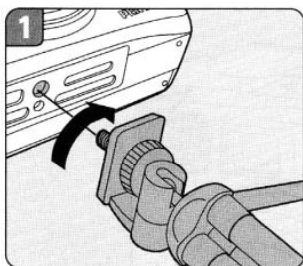
ストロボ／バルブボタンを押して、表示パネルに B 表示を出し撮影します。

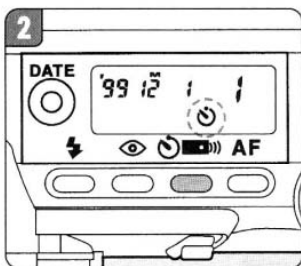
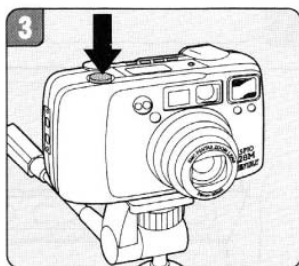
夜景などをバックに人物を撮影するときにご利用ください。バルブシンクロ撮影は、バルブ撮影でストロボを光らせます。人物にはストロボ光を当て、長時間のシャッター速度でストロボの光が届かない暗い背景まできれいにバランス良く撮影できます。

- バルブ撮影では、シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。[最長約 1 分]

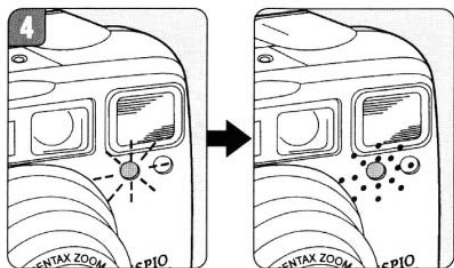
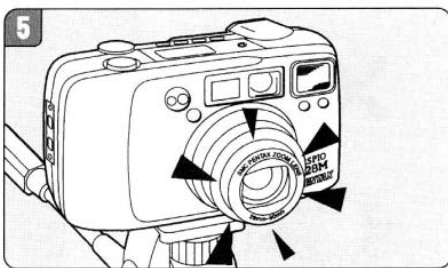
- 写したいものにストロボ光が届く距離内で撮影してください。[ストロボ撮影できる距離については、28 ページをご覧ください。]
- バルブシンクロ撮影では、シャッターボタンを押している間、シャッターが開きつづけます。手ぶれを防ぐため、カメラを三脚などに固定してください。また、写される人が動いてしまっても、写真はぶれてしまいますのでご注意ください。

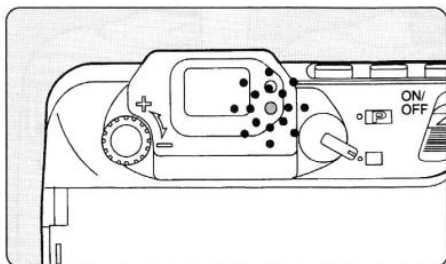
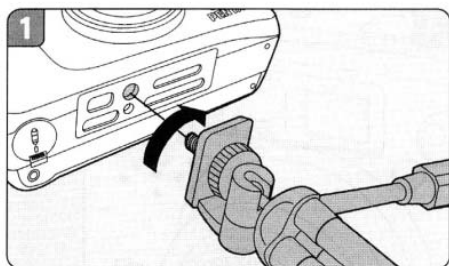
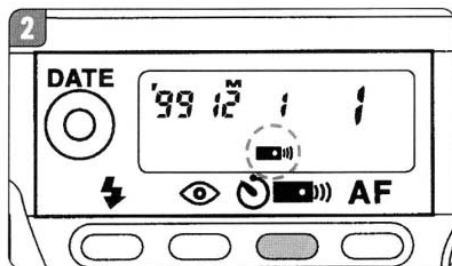
赤目軽減機能

1. 赤目軽減ボタンを押すと表示パネルに が表示されます。

2. このときにストロボ撮影を行うと、ストロボが 2 度発光して、目が赤く写るのを目立たなくします。もう一度ボタンを押すと解除されます。

ストロボ撮影の赤目現象について
ストロボ撮影で人物の目が赤く写ることがあります。これは、目の網膜にストロボの光が反射して発生する現象です。人物の周りを明るくしたり、撮影距離を近くにしてレンズを広角側[28mm側]で撮影すると、発生しにくくなります。

セルフタイマー撮影

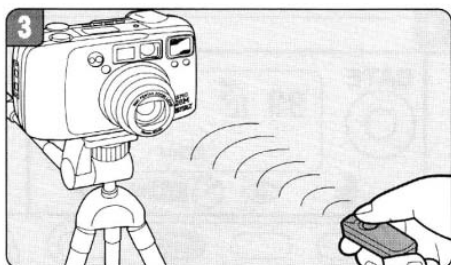
1. カメラを三脚に取り付けます。

2. セルフ／リモコンボタンを押して、表示パネルに 表示を出します。

3. 写したいものにピントを合わせてから、さらにシャッターボタンを押すと、セルフタイマーがスタートします。

撮影者も入って記念撮影をするときなどにご利用ください。

- セルフタイマーをスタートさせた後に中止したいときは、シャッターボタン以外の操作ボタンを押してください。このとき、電源スイッチで解除しても電源は切れません。

4.セルフタイマーの作動中は、表示パネルの [Ò] の点滅とセルフ／リモコンランプの点灯で知らせます。シャッターがきれる約３秒前からランプは点滅に変わります。

5.約10秒後に自動的にシャッターがきれます。

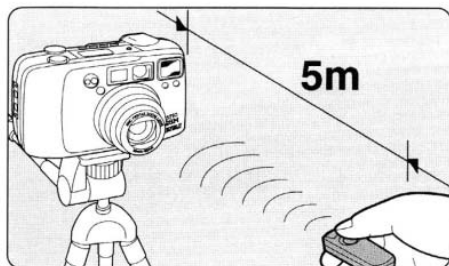
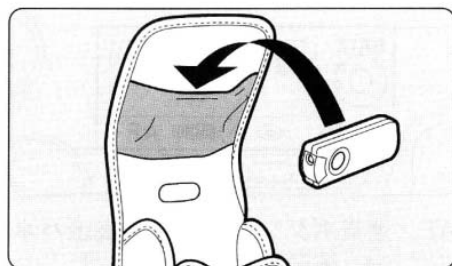
カメラの前側に立ってセルフタイマーをスタートさせると、写したいものにピントが合わなくなることがありますので後側でスタートさせてください。

赤ランプの点滅は、ストロボの充電中です。赤ランプの点灯を確認してから、セルフタイマーをスタートさせてください。

1. カメラを三脚に取り付けます。

2. セルフ／リモコンボタンを押して、表示パネルに 表示を出します。

リモコンを使うと、カメラから離れた所から好みのタイミングで撮影することができます。リモコンのシャッターボタンを押すと3秒後にシャッターがきれます。

- リモコン撮影モードのままで約5分間放置すると、自動的に電源が切れます。

3. リモコンをカメラ正面に向け、リモコンのシャッターボタンを押します。

4. セルフ／リモコンランプが早い点滅を3秒間した後シャッターがきれます。

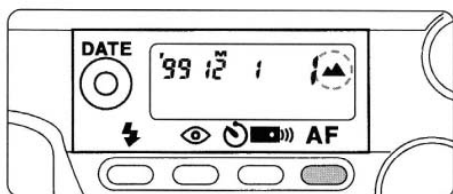
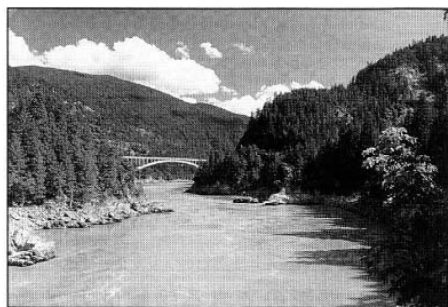
- バルブ撮影のときは、リモコンのシャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。[最長約1分]
- リモコンで撮影するときは、あらかじめファインダー内で構図を確認してから行ってください。リモコンのシャッターボタンを押したときに、ファインダー内の〔 〕が合っているものに、ピントが合います。

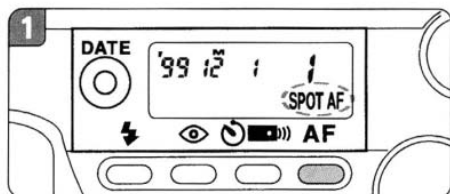
- リモコン受光部が汚れていると、リモコンが作動しないことがあります。汚れているときは、きれいな布などで拭いてください。

リモコン撮影のできる距離はカメラ正面から約 5m 以内です。

リモコンを使用しないときは、ソフトケース内側のポケットに入れておくと便利です。

- 逆光時はリモコン撮影ができないことがあります。
- ストロボ充電中はリモコン操作できません。少し待って撮影してください。
- リモコンのシャッターボタンを押した後に撮影を中止したいときは、シャッターボタン以外の操作ボタンを押してください。このとき電源スイッチで解除しても電源は切れません。

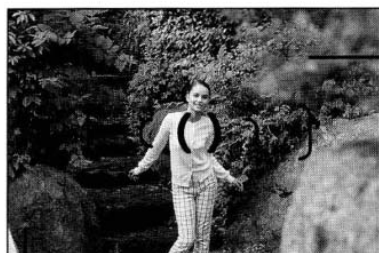
リモコン用電池について

リモコンは、約 30,000 回送信することができます。電池の交換は最寄りのペンタックスサービスセンターにご用命ください。[有料]

遠景撮影

AF／遠景ボタンを押して、表示パネルに ▲ 表示を出し撮影します。

このモードは、金網やガラス越しの遠くの風景などを撮影するときにご利用ください。ピントが遠くに固定されますので、誤って近くの金網やガラスにピントが合ってしまうのを防げます。

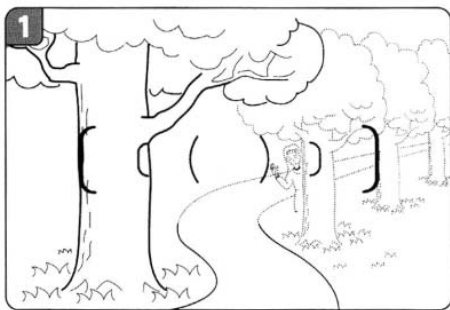
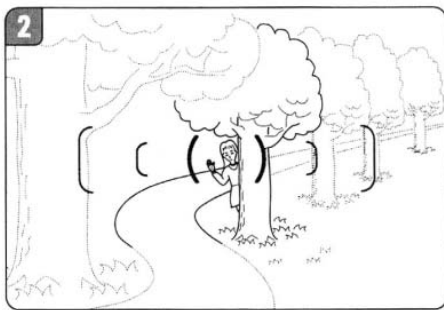
- 遠景撮影は、近くのものにはピントが合いにくくなっています。比較的遠くのものを撮影するときにご利用ください。
- 一度撮影をすると遠景撮影は解除されます。
- 露出方式が「オート撮影」では、暗くてもストロボは光りません。

SPOT AF スポットAF撮影

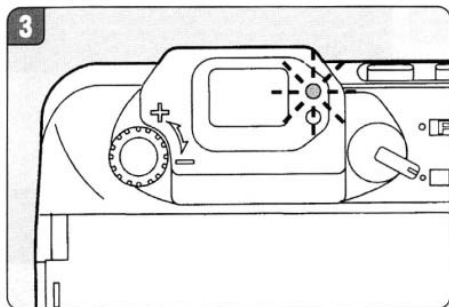
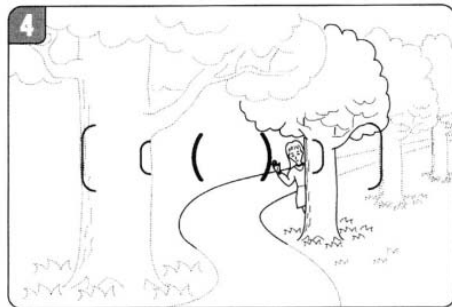
1. AF／遠景ボタンを押して、表示パネルに SPOT AF 表示を出します。

スポットAFは、ファインダー内中央の ( ) の内側だけでピント合わせ行います。特定の狭い範囲だけにピントを合わせたい場合やフォーカスロック撮影をする場合などにご利用ください。

2. ファインダー内中央の ( ) をピントを合わせたいものに合わせて撮影します。

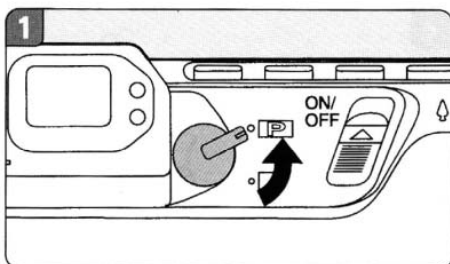
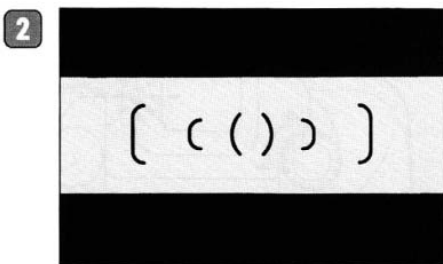
●電源を切ると、通常撮影モードの「5点AF撮影」に戻ります。

●ピントを合わせたいものが画面の中央にない場合は、フォーカスロック撮影を行ってください。フォーカスロック撮影については54ページをご覧ください。

フォーカスロック撮影

1. このまま撮影すると人物にはピントが合いません。こんな場合は、スポットAFに切り替えて、フォーカスロック撮影をします。

2. スポットAFの ( ) をピントを合わせたいものに合わせます。

●「1」のように( )内に、遠近のものが混在する場合は、一番手前にあるものにピントが合います。

3. シャッターボタンを少し押し、ピントを合わせ、緑ランプを点灯したままにします。

4. そのままシャッターボタンから指を離さずに、写したい構図に戻してシャッターをきります。

- 緑ランプ点灯中は、ピントが固定されます。[フォーカスロック]
- シャッターボタンから指を離すと、フォーカスロックは解除されます。

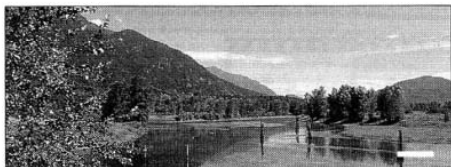
パノラマ撮影

1. パノラマ切り替えレバーを **P** 位置に合わせます。

2. 図のようにファインダー内がパノラマ用に切り替わりますので、この範囲に写したいものを入れて撮影してください。

このカメラでは、フィルムの途中でも自由にパノラマ撮影と標準撮影との切り替えができます。パノラマ撮影ではフィルム上で横長に写りますので、パノラマプリントにするとダイナミックな写真が楽しめます。

- 1mより近距離でのパノラマ撮影は、ファインダーで見える範囲と実際に写る範囲の差が大きくなりますので、お勧めできません。
- パノラマ切り替えレバーの切り替えは、しっかりと確実に行ってください。中途半端な位置になっていると、正しく切り替わらないことがあります。

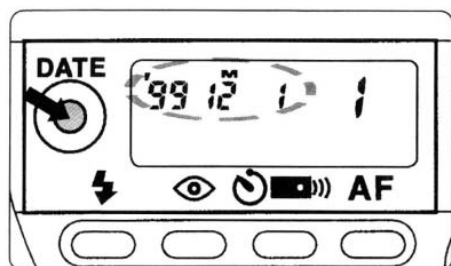
※パノラマ撮影の場合、通常の同時プリントに比べ多少日数、料金が多くかかります。
詳しくは、お店でおたずねください。
※パノラマ撮影では、図のように標準撮影のフィルム1コマ分の上下をカットするだけですから撮影枚数は、標準撮影のときと同じです。

※パノラマ撮影では、フィルム上に約13×36mmの大きさで画像を写し込み、プリント段階では約12mm×35mmの範囲のプリントを行ないます。ただし、この範囲はズーミング位置によって多少違います。
※パノラマプリントは約89×254mmのサイズにプリントされます。これは標準撮影されたフィルムを六ツ切りサイズに引き伸ばしたものとほぼ同じ倍率になります。

このカメラでは、パノラマ撮影でも日付や時刻を写し込むことができます。[日付や時刻の写し込みについては、59ページをご覧ください。]

写真の白線は日付や時刻の写し込まれる位置

写し込む内容を選びます

DATE ボタンを押して希望の表示を選んでください。

このカメラは、2030年までのオートカレンダー機能を持っています。日付や時刻の表示は、ほぼ正しくセットしてあります。

例えば1999年12月1日、14時30分の場合は、下図のように表示が変わります。

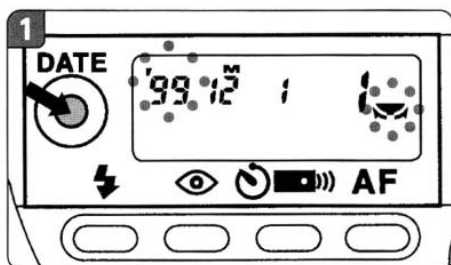
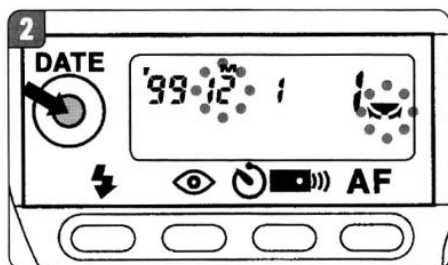
（年月日）

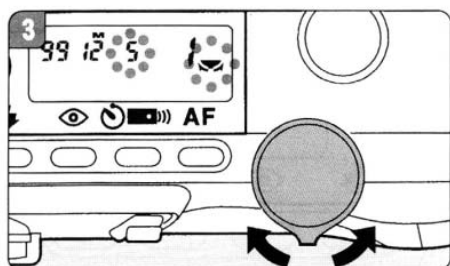
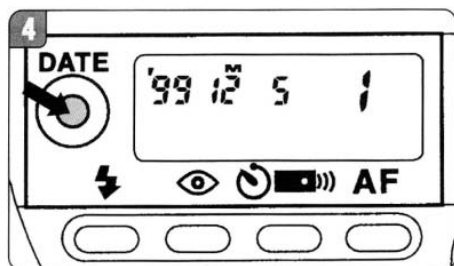
（日時分）

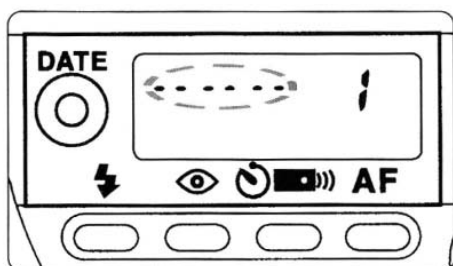
（写し込みなし）

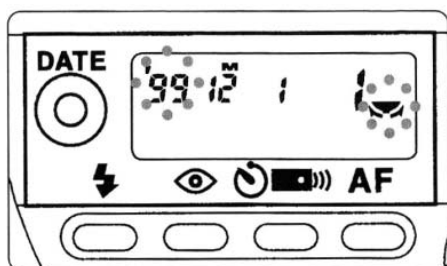
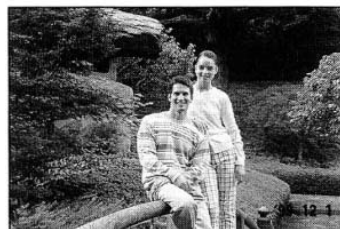
（月日年）

（日月年）

- 電源が切れていると表示の切り替えはできません。
- 表示パネルに表示されている日付や時刻が写真に写し込まれます。
- 日付や時刻を写し込みたくない場合は、------ を表示させます。
- 表示パネルのMは「月」の位置を示しています。

1. 電源を入れ、DATE ボタンを3秒間押し続けると「年月日」表示の「年」とズームレバー表示 [ズームレバー表示] が点滅します。

2. DATE ボタンを一回押すごとに点滅表示が[年→月→日→時→分]の順に移動します。修正したい表示を点滅させてください。

- 電源が切れていると、日付や時刻の修正はできません。
- 修正中[点滅表示中]は、シャッターをきっても日付や時刻は写し込まれません。
- 「年月日」表示の「年」は、1999年では「99」、2001年では「01」のように下2ケタのみが表示されます。

3. ズームレバーを動かすと点滅している数値を変更できます。［♠］側に動かすと数値は進み、［♠♠♠］側に動かすと戻ります。ズームレバーを動かしたままにすると約 1 秒後からは続けて変化します。

4. 修正後は、［DATE］ボタンを何度か押して点滅をなくします。

- 「分」表示の点滅状態で、［DATE］ボタンを時報などに合わせて押すと 0 秒にセットされます。
- 「年月日」と「日時分」を同時に写し込むことはできません。
- パノラマ撮影でも日付や時刻の写し込みができます。

電池交換を行うと、時刻が「0 時 0 分」に変わり、写し込み禁止モード［------］になります。必ず時刻の修正を行ってください。

- 日付や時刻が写る部分に白・黄色などの明るい物があると、日付や時刻が見えにくくなります。日付や時刻が写る部分には明るいものがこないようにしましょう。
- 規定枚数を超えたコマでは、日付や時刻が正しく写し込まれない場合があります。

電池交換後は、［DATE］ボタンを 3 秒間押さなくても「年月日」の「年」とズームレバー表示［ ］が点滅し、修正モードになります。

この写真の数字はハメコミ合成です。

MEMO

こんなときは？[詳しくは、各ページをご覧ください。]

修理を依頼される前にもう一度、次の点をお調べください。

症状	原因・対処
症状 1 ： シャッターがきれない。	原因・対処 1 ： ● 電源は入っていますか。電源を入れてください。[18 ページ] ● 電池は入っていますか。電池が消耗していませんか。[34、35 ページ] ● 表示窓に 0 が点滅している場合は、フィルムが終了しています。新しいフィルムと交換してください。[14、31 ページ] ● 表示窓に E が点滅している場合は、フィルムが正しく入っていません。正しく入れ直してください。[17 ページ]
症状 2 ： 写真の出来が良くない。	原因・対処 2 ： ● ピントを合わせたいものにファインダー内の ( ) を合わせて撮影してください。[25ページ] ● 緑ランプの点灯を確認してから撮影してください。[26ページ] ● 指や髪などで測距窓を覆わないようにして、シャッターボタンは静かに押してください。[19 ページ] ● 測距窓が汚れていませんか。[26 ページ]
症状 3 ： ズームレンズが勝手に収納され、電源が切れた。	原因・対処 3 ： ● 電源を入れたまま放置した場合は、放置後約 3 分間たつと、自動的に電源が切れます。[18 ページ] ● リモコン使用時は、放置後約 5 分間たつと、自動的に電源が切れます。[49ページ]

症状	原因・対処
症状4：リモコンによる操作ができない。	原因・対処4： ● リモコンが作動するのは、カメラの正面で約5mです。この範囲内でリモコンを操作してください。[51ページ] ● 逆光時はリモコンが作動しないことがあります。[51ページ] ● ストロボ充電中。充電が完了するまで待ってください。[51ページ] ● リモコンの電池が消耗している。[51ページ] ● リモコン撮影モードになっていますか。表示パネルに マークを表示させてください。[49ページ]
症状5：暗くないのにストロボが光る。	原因・対処5： ● 逆光でも自動的にストロボが光ります。[27ページ] ● 表示パネルに が表示されていませんか。[40、42、44ページ]
症状6：表示パネルに -- 表示が点滅する。	原因・対処6： ● ズームレバーなどを動かしてみてください。表示が消えればそのままご使用になれますが、度々出る場合は故障の可能性があります。

このマーク（CE）は、安全性・環境および消費者保護に関するEU（欧州連合）の要求事項に適合していることを示すものです。CEとは、フランス語の Comunité Européen（欧州共同体）の略語です。

主な仕様

形式……………………ズームレンズ内蔵フルオート35mm レンズシャッターカメラ[デート付き]
使用フィルム…………35mmDXフィルム専用[135パトローネ入り] ISO25〜3200自動感度セット[1EVステップ]　DX以外＝ISO25固定
画面サイズ……………24×36mm[パノラマ撮影時は13×36mm]
フィルム装填…………オートローディング、裏ぶた閉じにより1枚目まで自動巻き上げ
巻き上げ………………自動巻き上げ式
巻き戻し………………フィルム終了時自動巻き戻し式[巻き戻し時間：24枚撮りフィルムで約20秒]巻き戻し終了時自動停止、途中巻き戻し可能
撮影枚数………………自動復元順算式、巻き戻しに連動[減算]
外部表示………………表示パネルにLCD液晶表示
レンズ…………………ペンタックス28〜90mmF4.8〜10.9電動ズームレンズ　5群7枚　画角[対角線]75°〜27°　ズームマクロ機構付き
ピント合わせ…………パッシブ5点AF方式[スポットAF可能]、フォーカスロック可能、撮影距離＝0.50m〜∞[最大倍率約0.22×]、遠景撮影あり[ピントは無限遠に固定]、補助光あり
ズーミング……………電動式
シャッター……………プログラムAE電子式シャッター＝約1/300〜2秒、バルブ[1/2秒〜1分]、電磁レリーズ式
セルフタイマー………電子式ランプ表示、作動時間約10秒、作動後の解除可能
ファインダー…………実像式ズームファインダー、視野率80%、倍率0.30×[28mm側] 0.87×[90mm側]、視度調整付き −3〜+1m⁻¹[毎メートル]、オートフォーカスフレーム[5点AF・スポットAF]、近距離視野補正枠、パノラマ視野枠、緑ランプ点灯：撮影可能　点滅：測距不能・近距離警告、赤ランプ点灯：ストロボ発光　点滅：ストロボ充電中

露出……………………プログラム式自動露出[マルチ測光]
露出連動範囲[ISO400] オート、日中シンクロ時＝EV9.5～EV18[28mm 側]
EV13～EV20[90mm 側] 低速シャッター撮影時＝EV4～18[28mm 側] EV6～20[90mm 側] 逆光時自動露出補正可

露出計スイッチ………シャッターボタン

ストロボ………………ズームオートストロボ内蔵[赤目軽減機能付き]、オート＝低輝度、逆光時自動発光、
ストロボON＝日中シンクロ／低速シンクロ[2 秒まで使用可能]
バルブシンクロ＝1／2 秒～1 分

ストロボ撮影範囲……[ISO400 使用時] 28mm 側＝0.50～7.4m、90mm 側＝0.50～3.9m

ストロボ充電時間……約 5 秒 [当社試験条件による]

使用電池………………3Vリチウム電池[CR123A相当品] 1 本

電源……………………自動電源オフ[放置後約 3 分]

撮影可能本数…………24 枚撮りフィルム使用時 約15本[ストロボ 50%使用、当社試験条件による]

電池消耗警告…………表示パネルに が点灯、点滅時シャッターロック

デート機構……………クォーツ制御・液晶表示式デジタル時計、オートカレンダー[西暦2030年まで、閏年は自動修正]、パノラマ時写し込み可能

データ写し込み方法…フィルム前面からの写し込み

データの種類…………①年・月・日 ②日・時・分 ③-- -- --[データ写し込み無し]
④月・日・年 ⑤日・月・年

大きさ・質量[重さ]…114.5[幅]×67.5[高さ]×46[厚み]mm 230g[電池別]

付属品…………………ストラップEJ、ソフトケースEQ、リモートコントロールD

<リモコン仕様>

リモコン………………赤外線リモートコントロール、リモコンシャッターボタン押しで 3 秒後撮影、
作動距離＝カメラ前面約 5m 以内

使用電池………………リチウム電池[CR1620] 1 個[サービスセンター交換]

大きさ・質量[重さ]…22[幅]×50[長]×9.5[厚]mm 9g [電池含む]

さくいん

た行

な行

は行

ま行

ら行

英数字

PENTAX® ESPIO 928M クイックガイド

クイックガイド（このページは、切り取ってソフトケースなどに入れてお使いください。）
こんな写真を撮りたいと思ったときに、表示パネルに下の表示を出すだけで簡単にいろいろな撮影が楽しめます。

[⚡] ボタン

[ ] オート
最も一般的なモードです。暗い所や逆光では自動的にストロボが光ります。

[⚡] 日中シンクロ
明るくても暗くても常にストロボが光ります。帽子をかぶった人物撮影など、逆光以外で人物が暗くなってしまうときに使います。

[⊘ ◩] 低速シャッター
暗くてもストロボを光らさせません。ストロボが使えない美術館や室内の照明を利用した撮影をしたいときに使います。

[⚡ ◩] 低速シンクロ
夕景をバックにした人物撮影などで、人物にストロボを当てることで、夕景と人物をバランスよく撮影できます。

[⊘ B] バルブ
花火や夜景の撮影に使います。シャッターボタンを押している間シャッターが開き続けます。

[⚡ B] バルブシンクロ
バルブ撮影でストロボを光らさせます。夜景をバックにした人物撮影などに使います。

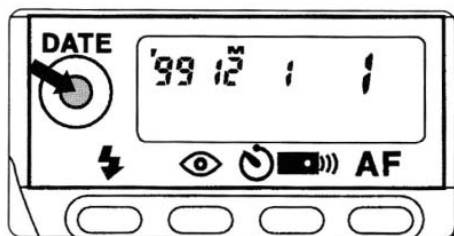
[セルフタイマー/リモコン] ボタン

[セルフタイマー] セルフタイマー
自分自身も写真に写りたいときに使います。10秒後にシャッターがきれます。

[リモコン] リモコン
カメラから離れたところからシャッターをきることができます。
リモコンのシャッターボタンを押すと3秒後にシャッターがきれます。

[AF] ボタン

[▲] 遠景撮影
ガラス越しの遠景などを撮影するときにご利用ください。

[SPOT AF] スポットAF撮影
特定部分だけにピントを合わせて撮影するときにご利用ください。

PENTAX® ESPIO 928M クイックガイド

日付や時刻の修正

1. 電源を入れ、[DATE] ボタンを3秒間押し続けると「年月日」表示の「年」とズームレバー表示 [ズームレバー] が点滅します。

2. [DATE] ボタンを一回押すごとに点滅表示が[年→月→日→時→分]の順に移動します。修正したい表示を点滅させてください。

3. ズームレバーを動かすと点滅している数値を変更することができます。[▲] 側に動かすと数値は進み、[▲▲▲] 側に動かすと戻ります。ズームレバーを動かしたままにすると約1秒後からは続けて変化します。

4. 修正後は、[DATE] ボタンを何度か押して点滅をなくします。

- 「分」表示の点滅状態で、[DATE] ボタンを時報などに合わせて押すと0秒にセットされます。
- 電源が切れていると、日付や時刻の修正はできません。

・旭光学のサービス窓口では、ペンタックスカメラをはじめ、各種交換レンズやアクセサリーが展示され、お手にとってご覧になれます。また、種々のご相談にも応じておりますので、お気軽にお立ち寄りください。

1. 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満1年間無料修理致しますので、お買い上げ店か使用説明書に記載されている最寄りの当社サービス窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接お持ちください。修理品ご送付の場合は、化粧箱などを利用して、輸送中の衝撃に耐えるようしっかりと梱包してお送りください。不良見本のフィルムやプリント、また故障内容の正確なメモを添付していただけると原因分析に役立ちます。
2. 保証期間中[ご購入後1年間]は、保証書[販売店印および購入年月日が記入されているもの]　をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様にご負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。
3. 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
   ・使用上の誤り(使用説明書記載以外の誤操作等)により生じた故障。
   ・当社の指定する修理取扱い所以外で行われた修理・改造・分解による故障。
   ・火災・天災・地変等による故障。
   ・保管上の不備(高温多湿の場所、防虫剤の入った場所での保管等)や手入れの不備(泥・砂・ホコリ・水かぶり・ショック等)による故障。
   ・保証書の添付のない場合。
   ・販売店名や購入日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。
4. 保証期間以後の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。
5. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後7年間を目安に保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので、当社サービス窓口にお問い合わせください。
6. 海外旅行をされる場合国際保証書をお持ちください。国際保証書は、当社サービス窓口でお持ちの保証書と交換に発行しております。[保証期間のみ有効]

●お問い合わせは次の各サービス窓口へ

ペンタックスフォーラム	〒163-0401	東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル1階 (私書箱240号)	☎03(3348)2941(代)
旭光学 東　京サービスセンター	〒104-0061	東京都中央区銀座西8-10 (土橋交差点交番並び)	☎03(3571)5621(代)
〃 札　幌サービスセンター	〒060-0010	札幌市中央区北10条西18-36 ペンタックス札幌ビル4階	☎011(612)3231(代)
〃 仙　台サービスセンター	〒981-3133	仙台市泉区泉中央1-7-1 千代田生命泉中央駅ビル5階	☎022(371)6663(代)
〃 新　潟サービスセンター	〒951-8067	新潟市本町通7番町1153 新潟本町通ビル4階	☎025(224)8391(代)
〃 横　浜サービスセンター	〒231-0047	横浜市中区羽衣町2-7-10 日本生命関内ビル8階	☎045(232)5281(代)
〃 静　岡サービスセンター	〒420-0858	静岡市伝馬町24-2 住友建設ビル5階	☎054(255)6308(代)
〃 名古屋サービスセンター	〒461-0001	名古屋市東区泉1-19-8	☎052(962)5331(代)
〃 大　阪サービスセンター	〒542-0081	大阪市中央区南船場1-17-9 パールビル2階	☎06(6271)7996(代)
〃 広　島サービスセンター	〒733-0035	広島市西区南観音3-5-2 空港通りビル6階	☎082(234)5681(代)
〃 福　岡サービスセンター	〒810-0802	福岡市博多区中洲中島町3-8 パールビル1階	☎092(281)6868(代)
〃 お客様相談室	〒104-0061	東京都中央区銀座西8-10 (土橋交差点交番並び)	☎03(3572)6479

※日曜・祝日および土曜日は原則として休みます。
ただし、年末年始を除きペンタックスフォーラムは年中無休です。

ペンタックスファミリーのご案内

ペンタックスファミリーは、ペンタックス愛用者の写真クラブです。年4回の会報と写真年鑑の配布、イベントへの参加や修理料金の会員割引など様々な特典があります。
お申し込み・お問い合わせは下記ペンタックスファミリー事務局まで。
〒100-0014 東京都千代田区永田町 1-11-1
三宅坂ビル3階 ☎03 (3580) 0336

旭光学工業株式会社
〒174-8639 東京都板橋区前野町2-36-9
ペンタックス販売株式会社
〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-1

☆この使用説明書には再生紙を使用しています。
☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

56589　01-9912